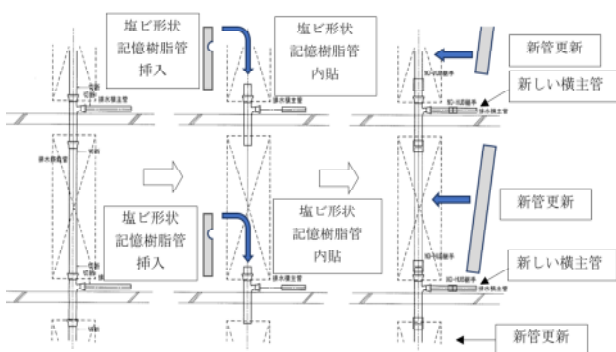




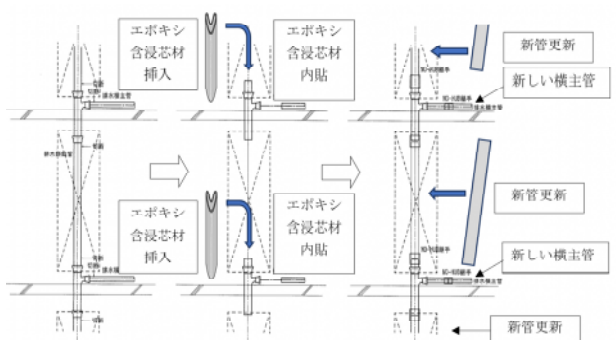
[審査証明番号/有効期限]	BCJ-審査証明-304/2028年1月22日
[技術の名称]	排水管再生技術「インパイプフェニックス 内貼圧着工法」
[依頼者(審査証明取得者)]	ジャパン・エンジニアリング株式会社

[技術概要]

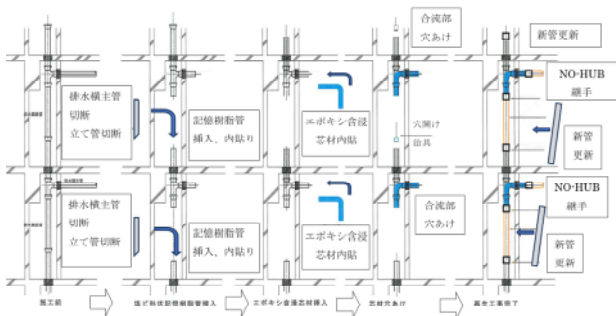
本技術は、建築物のコンクリート壁、梁、床等を貫通している経年劣化した排水管の両端若しくは片側を切断し、内面を目視しながら研磨・清掃した後、「工法A 塩ビ内貼(形状記憶樹脂管)」、「工法B ハート(エポキシ樹脂含浸芯材)」、「工法C ハイブリッド(形状記憶樹脂管とエポキシ樹脂含浸芯材の併用)」のいずれかの再生材を挿入し、空気圧で圧着することで樹脂による内管を形成する再生技術である。



工法A 塩ビ内貼(形状記憶樹脂管)



工法B ハート(エポキシ樹脂含浸芯材)



工法C ハイブリッド(形状記憶樹脂管とエポキシ樹脂含浸芯材の併用)

[開発の趣旨]

築30年を超える高経年マンションが急増しており、排水管の更新時期を迎えている。ほとんどのマンションの排水立て管は住戸内の水回り付近にあるため更新工事するためには、床を壊すなどの大掛かりな工事となり費用も嵩むため修繕を繰り返すことで延命を図っていた。インパイプフェニックス 内貼圧着工法は、コンクリート躯体を貫通している配管(継手を含む)のみ再生し、その他の更新が容易な部分は更新する再生工法である。躯体貫通管の両端もしくは上流側を切断し、施工箇所周辺の管内を目視で確認しながら研磨・清掃後、樹脂による内管を形成する。再生した配管と新管の接合は、「NO-HUB継手(ノーハブ継手)」と呼ぶ突合せジョイントで強固に接合する。

[開発目標及び審査証明結果]

本技術について、前記の開発の趣旨及び開発の目標に照らして審査された結果は、以下のとおりである。

- (1) 内貼樹脂は耐薬品性、耐久性及び十分な接着性を有するものと判断される。
- (2) 研磨工程においては、配管内部の付着物・錆を除去し、適切な内貼下地を形成するものと判断される。
- (3) 内貼工程においては、仕上がりが平滑で防汚性能を有する1.2mm以上の樹脂層が形成できるものと判断される。
- (4) 排水立て管(通気管を含む)と排水横枝管の分岐継手部においても実用に耐えうる塗膜が形成できるものと判断される。
- (5) 更新した配管との接続用に使用する「NO-HUB継手(ノーハブ継手)」が接続継手としての強度を有するものと判断される。

[本技術の問い合わせ先]

ジャパン・エンジニアリング株式会社

排水管再生事業部 担当: 青木

03-5842-1955

技術紹介サイト

<http://www.japan-eng.co.jp>

